

2022年、日本のEPA交渉はどうか？

思えば、2021年の年明けには世界のだれもが、新型コロナは中国の一部での病気としか思っていなかった。それから2年。それでもEPAは着実の動き、日英EPAの締結発効、RCEPの署名と発効の確定と進んだ。2022年はどうなるのか？予測してみる。

まずCPTPPである。いまだ批准していないチリ、マレーシア、ブルネイの動向である。

チリについては、2019年中に議会の承認がされる見込みであったが、土壇場で無期延期状態になっている。2022年3月の大統領選挙で左派の候補が当選した場合、公約に新たなFTAはしないとしていることからこのまま加盟しないという予測もされている。

もっともペルーが、左派の大統領の就任直前に批准したようにかえって、左派の当選の場合に直前に批准もありかと思うがどうであろうか？

マレーシアは、2021年中にRCEPを批准しそうで併せてCPTPPも批准しそうである。その場合ブルネイも追随しそうである。

新規加盟についてはイギリスの加盟交渉は2022年中にまとまりそうであるが、申請の扱いがまだ処理されていない中国と台湾はどうか？加盟申請が何回も先延ばしになっているタイと韓国はどうするか？いずれにせよ、日本のCPTPP議長国は2021年末で終わり、2022年はシンガポールとなる。新規加盟の扱いについて日本が主導権をとる期間は終了する。市場開放水準の切り下げを認めず、加入後の協定順守を求めるのは当然であるが、交渉開始時の条件とはできないであろう。

そうすると2022年の第1回CPTPP委員会で交渉開始が承認となるのがもっともありそうである。その場合、加入WPは、形式的には国別になるとしても実質的に合同で開催し、個別の条件交渉にならないようにできれば日本としては好ましいだろう。

交渉中のEPAは、どうなるか？

日中韓FTAは、2021年11月に交渉会合を開催して以来、動きがないが「RCEP交渉の進展の現状を確認し、いかなる付加価値を付与することができるかを議論」と日本の外務省は説明しており水面下で交渉が進展しRCEP発効後妥結発表という可能性もある。

同じく2021年10月から進展のない日トルコEPAは、動向が不明である。

公式に交渉中断となっているGCCとのFTAであるが、最近GCCがEU、イギリスとの交渉を再開してる。日本も交渉再開してしかるべきかと思うが情報は乏しい。

こうみると2022年に確実に行われるの、CPTPP拡大交渉のうちイギリスとの交渉のみであり、ほぼ確実なものは、CPTPP拡大交渉のうち中国、台湾との交渉、かなり可能性があるのはCPTPP拡大交渉のうち韓国、タイとの交渉であり、交渉中のもので何らかの進展の可能性のあるのは日中韓FTAとなりそうである。

さて2022年暮れにこれを採点して何点になるか？